

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 54-005888

(43)Date of publication of application : 17.01.1979

(51)Int.CI.

C08J 5/22
// B05D 5/00
C08F 8/00

(21)Application number : 52-071015

(71)Applicant : MITSUBISHI PETROCHEM CO
LTD

(22)Date of filing :

17.06.1977

(72)Inventor : TANAKA RYOHEI

YASUKAWA SHIGEKI

(54) PROCESS FOR PRODUCING HETEROGENEOUS CATION EXCHANGER
MEMBRANE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the subject process comprising treating a heterogeneous cation exchange membrane with a resin having an ion-exchange group bridging microcracks produced at the time of after-treatment of said membrane with hot water.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of
rejection]

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

)

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑩特許出願公開
昭54-5888

⑪Int. Cl.⁷ 認別記号
C 08 J 5/22 / 102

B 05 D 5/00
C 08 F 8/00

⑫日本分類 厅内整理番号
13(9) F 131 7415-4F
25(5) K 12 6683-4F
26(3) F 2 6779-4J

⑬公開 昭和54年(1979)1月17日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭不均質カチオン交換膜の製造方法

⑮特 願 昭52-71015

⑯出 願 昭52(1977)6月17日

⑰発明者 田中良平
茨城県稻敷郡阿見町大字若栗13
15番地 三菱油化株式会社中央
研究所内

⑱発明者 安川栄起

茨城県稻敷郡阿見町大字若栗13
15番地 三菱油化株式会社中央
研究所内

⑲出願人 三菱油化株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目5
番2号

⑳代理人 弁理士 内田明 外1名

明細書

1.発明の名称 不均質カチオン交換膜の製造方法

2.特許請求の範囲

ボリオレフィン樹脂と微粉末状カチオン交換性物質を混合し、得られた混合物を膜状に成形し、この膜状成形物を熱水で処理した後、生じたミクロタラフクの一部ないし膜表面層にカチオン交換樹脂層を形成させることを特徴とする不均質カチオン交換膜の製造方法

3.発明の詳細な説明

本発明は改良されたカチオン交換膜の製造方法に關し、特に高イオン強度における陽イオン離率大なる不均質カチオン交換膜の製法に関する。イオン交換膜の一つとして膜状の合成樹脂マトリックス中にイオン交換性物質を微細に分散させたものがあり、不均質イオン交換膜として実用に供されている。このようなく不均質イオン交換膜はイオン交換樹脂自身を膜状にした均質イオン交換膜よりも機械的強度が優れている

がその機械的強度はな々充分ではなく実際に使用するに當つては種々の弱點を有している。たとえば不均質イオン交換膜の实用性を向上させるためには、イオン交換樹脂の化学構造を多様にするため、架橋度を高めて膨潤度を低くすることが必須とされているが、イオン交換基密度が極端となり必然的に膜の比抵抗も増大する。現在商品化されているイオン交換膜は水溶液に浸漬時とこれが空気中で自然乾燥された場合とでは膨脹吸収が激しく膜の変形や膜自体にひびが入つたりすることのため実用不能となる。従つてイオン交換膜は強制状態に保つて常時で使用することが絶対条件となつてから、そのため強度として使用する場合の大きな難点となつてゐる。またこのようないオン交換膜は一般に柔軟ではなく、従つてこれをイオン交換膜としてイオン交換膜に使用する場合、困難を伴うばかりでなく、イオン交換性を有するという点から興味ある他の用途に使用しようとする場合にも空疎がある。

これらの点に解決を与えて効率的な不均質イオン交換膜を製造することを目的として、マトリックスとしてポリオレフイン樹脂を用いてこれと微粉末状カチオン交換樹脂を混合、成形後、熱水にて後処理を施す不均質イオン交換膜の製造方法が提案されている。この方法は、例えば特公昭47-24262号、特開昭49-23886号公報、特開昭49-53189号明細書等に示されている。しかしながら上記の方法により製造した不均質イオン交換膜は比較的低いイオン濃度の水溶液の脱塩処理用イオン交換膜としてはある程度の性能を有しており実用的ではあるが、高いイオン濃度の水溶液の脱塩処理用イオン交換膜としては性能的にはまだ充分満足しうるものではなかつた。すなわち、高いイオン濃度の水溶液において上記の方法により製造した不均質イオン交換膜の比透析は十分に低いがイオン輸率が低下する欠点を有していた。

上記不均質イオン交換膜は熱水後処理時に起因してイオン交換樹脂の膨潤に起因してミクロク

樹脂層を形成させることを特徴とする高イオン濃度における高イオン輸率の大なる不均質カチオン交換膜の製造方法により構成することができる。

これまでにおいて、マトリックス樹脂として使用されるポリオレフイン樹脂は、エチレン単独重合体、プロピレン単独重合体、エチレンまたはプロピレン主体の共重合体、およびこのようなオレフイン単独重合体または共重合体を主体とする重合体混合物を包含する。

微粉末状カチオン交換樹脂としては任意のものが用いられるが、その例は例えば次のようにして行なわれる。

① 常温にカチオン交換基の導入が可能なビニル基を有する芳香族化合物およびこれと重合能を有する不飽和結合を2個以上分子内に保有する化合物とを水性媒体中で懸濁共重合させ、得られたビーズ状共重合体をスルホン化剤で処理し、こうして得られたビーズ状カチオン交換樹脂を微粉砕する。

特開昭51-588812) ラックが発生し、これがイオン交換膜の性能の制御因子の一つとなつてゐるが、このミクロクラックが大きいためにこの中に含まれる水またはイオンが高いイオン濃度においてイオン輸率を低下させる原因となつてゐると推定される。

そこで本発明者は高いイオン濃度において膜の比透析を大市に上昇させないで高いイオン輸率を有する不均質イオン交換膜を得るための方法を開発すべく種々研究した結果、不均質イオン交換膜を熱水で後処理する時生じるミクロクラックを架橋したイオン交換性の基を有する樹脂で処理することが有効である事実を発見し本発明に到達した。

すなわち、本発明は高イオン濃度における効率イオン輸率の大きな不均質カチオン交換膜を提供することを目的とし、その目的は、ポリオレフイン樹脂に微粉末状カチオン交換性物質を混合し、得られた混合物を球状に成形し、この球状成形物を熱水にて処理した後、生じたミクロクラックの一部ないし表面層にカチオン交換

② 常温にカチオン交換基の導入が可能なビニル基を有する芳香族化合物およびこれと重合能を有する不飽和結合を2個以上分子内に保有する化合物とを水性媒体中で乳化共重合させ、得られた微粉末状共重合体をスルホン化剤で処理して微粉末状カチオン交換樹脂とする、

④ ウエノール化合物/ホルムアルデヒド共縮合体を母体としたカチオン交換樹脂を微粉砕する、等の方法で行なう。

なまこでいう常温にカチオン交換基の導入が可能なビニル基を有する芳香族化合物としては、例えばステレン、ビニルトルエン、エチルビニルベンゼン、2-メチルステレン、ビニルナフタレンまたはその誘導体等の一種または二種以上を用いる。また重合能を有する不飽和結合を2個以上分子内に保有する化合物としては、一般にはジビニルベンゼンが用いられる。

ポリオレフイン樹脂と微粉末状カチオン交換樹脂との混合割合は製品の使用目的に応じて定められるが、一般には重量比で2:8~8:2、

特許3754-5888(3)

好ましくは +6~+7:3 の範囲内が適当である。ポリオレフィン樹脂と陰イオン交換樹脂の混合は、両者の均一な混合を可能とする任意の方法によつて行なわれるが、一般にはロールあるいは押出機を用いて混練する。特にポリオレフィン樹脂の融点以上の温度で充分に混練するのが好ましい。この混練の段階または他の任意の段階で必須に応じて酸化防止剤、着色剤、光増剤、滑剤等の補助成分を添加することができる。次に、得られた混合物は一般的なロールあるいはプレス等で適度な条件下にアイルムあるいはシート状に成形する。成形作業の前段の可塑化工程は前記の各成分の混練工程をもつて代用することができる。

このようにして製造された形状の成形物は、よりて以上、好ましくは 7.0 て以上の熱水を用いて後処理する。本発明における熱水による処理は、比抵抗を低下させ、かつ使用中の絶時強化を少なくする目的でイオン交換樹脂の膨潤を可及的大きくするために行なう。したがつて、

処理用の熱水は可溶性物質を含まないことが望ましいが、ミクロタラクタの発生を抑制する必要があるときは、熱水に酸、アルカリあるいは塩化ナトリウム等の塩を添加することができる。

上記処理を経たイオン交換樹脂膜のミクロタラクタないし駆逐面層に次いでカチオン交換性樹脂層を形成する。カチオン交換樹脂層を形成する方法としては、アクリル酸のポリマー等カチオン交換性基を有するポリマーあるいはカチオン交換性基を導入しうる基を有するガリマーを溶解化液とし、次いで後処理適宜の手段によりイオン交換樹脂膜に液布した後、放射線を照射して交換させる方法、またはカチオン交換性モノマーと架橋用モノマーを液布した後聚合するか、あるいはカチオン交換性基を導入する液布したモノマーと架橋用モノマーを液布後カチオン交換基を導入する方法等があるが、モノマーから出発する後者の方法が好適である。

すなわち、モノマーの組合せとしては大別して下記の二通りがある。

(1) カチオン交換性基を有するモノマーと架橋用モノマーおよび場合によつては前記両モノマーと相溶する反応性あるいは非反応性溶媒
(2) カチオン交換性基の導入に通したモノマーと架橋用モノマー。

カチオン交換性の基としては、カチオン交換性を有する基であればいずれも適用できるが、比抵抗の増大を防ぐにはスルホン化基が最適である。カチオン交換性の基を有するモノマーとしては、アクリル酸、アクリル酸塩、アクリル酸エチル、メタクリル酸、メタクリル酸塩、メタクリル酸エチル、ステレンスルホン酸、ステレンスルホン酸塩、ビニルスルホン酸、ビニルスルホン酸塩、ビニルスルホン酸エチル等がある。

カチオン交換性基の導入に通したモノマーとしてはステレンが一般に使用される。導合後カチオン交換性の基を導入する方法としては、公知の方法、例えば硫酸またはクロル化銀によるスルホン化物が用いられる。

一方架橋用モノマーとしては、例えばジビニルベンゼン、ジメタクリレート類、メテレンビスアクリルアミド等が用いられる。カチオン交換性を有するモノマーと架橋用モノマーが相溶しない場合には、アクリル酸、メタクリル酸等の反応性のモノマーおよび/または水等の非反応性のモノマーを用いて均一にして反応を行なう方策が良い。

上記モノマーの組合せを液体膜に合致した後、組合を行なうが、組合方法としては紫外線、熱あるいは放射線等を用いて行なう。ただし、紫外線を用いる場合には、光増感剤として公知のベンゾイン化合物、ベンゾフエノン類、メルカプタン類等の使用が必要であり、また熱を用いる時には接合開始剤としてペーオキサイド類、アゾ化合物等の使用が必要である。塗合温度としては基体膜の耐熱性、すなわちポリオレフィンの耐熱性からみて 100 て以下、好ましくは 80 て以下がよい。そのためには組合を行なう場合の開始剤は、その温度で分解するものであ

ればよく、例えはベンゾイルペーパーサイド、ラウロイルペーパーオキサイド、ジソブルビルペーパーオキシジカルボオート、ターシヤリーブテルペーパーオキシビペレート、アソビスイソブテロニトリル等が用いられる。

重合後はモノマーを除去するためメタノールで洗浄後、さらに水洗する。場合によつては、その洗浄水にて臭味処理する。

以上のようにして得た不均質カチオン交換膜は高イオン濃度水溶液中ににおいて膜の比抵抗を損なうことなく、大巾にイオン輸率が増大する。

以下実施例により本発明をさらに詳細に説明する。なお本発明はこれら実施例に限定されるものではなく任意の変更が可能である。実施例中、部とはすべて重量による。

〔比較例-1〕

ステレン α 2部に対してジビニルベンゼン(測定5.5%)8部を加え、過酸化ベンゾイル等を触媒として懸濁重合法により粒状共重合体を得て、これを発煙硫酸でスルボン化して強酸性

を用いて照射距離1.0mの条件下で1.0秒照射し、改良膜を得た。この膜の厚みは0.43mmでイオン輸率は0.94、比抵抗は250Ω \cdot mであった。この膜を95℃の熱水中に30分間浸漬後の物性は膜厚み0.43mmでイオン輸率は0.95、比抵抗は180Ω \cdot mであった。

〔比較例-2〕

膜状成形物(4)を熱水処理する前に〔実施例-1〕と同じ条件でイオン交換樹脂膜を形成せしめ、かかる様95℃の熱水中に30分間浸漬した。このカチオン交換膜の膜厚、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.40mm、0.78、160Ω \cdot mであった。

〔実施例-2〕

ステレンスルホン酸カリの代りにビニルスルホン酸ソーダを使用した以外は〔実施例-1〕と同様の方法によつてカチオン交換膜を得た。この膜を95℃の熱水中に30分間浸漬後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.39mm、0.96、170Ω \cdot mであった。

時間6:54-5888(4)
カチオン交換樹脂を得た。この不均質カチオン交換樹脂を直径ボールミルで粒度325メッシュ以下に破碎した。この樹脂の総イオン交換容量は4.5 meq/g(乾燥物)であつた。破碎した不均質カチオン交換樹脂粉末60部に対してポリブロピレン(MI=1.0)粉末40部を加えて完全に均一混合を行なつた後、シート状物し盤状成形物(4)を得た。この盤状成形物(4)を測定95℃の熱水中に30分間浸漬し、不均質カチオン交換膜を得た。このカチオン交換膜の膜厚は0.38mm、イオン輸率は0.76、比抵抗は150Ω \cdot mであつた。

〔実施例-1〕

ステレンスルホン酸カリ51%、アクリル酸24%、ノテレンビスマクリルアミド25%、ベンゾイダシメチルエーテル2%モノマー、1キロおよび水70%モノマーよりなる液を飼製し50℃にて均一系とし、不均質カチオン交換樹脂を得た。このカチオン交換膜の膜厚は0.40mm、イオン輸率は0.94、比抵抗は250Ω \cdot mである。

〔実施例-3〕

メチレンビスマクリルアミドの代りにニテレンクリコールジメタクリレートを使用した以外は〔実施例-1〕と同様の方法によつてカチオン交換膜を得た。この膜を95℃の熱水中に30分間浸漬後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.40mm、0.98、250Ω \cdot mであつた。

〔実施例-4〕

メチレンビスマクリルアミド半波の代りにメチレンビスマクリルアミド9%とニテレンクリコールジメタクリレート16%を使用した以外は〔実施例-1〕と同様の方法によつてカチオン交換膜を得た。この膜を95℃の熱水中に30分間浸漬後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.42mm、0.90、220Ω \cdot mであつた。

〔実施例-5〕

ステレン α 2%、ジビニルベンゼン8%、ベンゾイダシメチルエーテル2%モノマーよりな

る液中に不均質カチオン交換膜(図)を複数枚張り(実施例-1)と同様の照射装置を用いて20秒照射した。この膜を9.8%硫酸83%、テトラクロルエタン+7%よりなる液中で40℃で6時間スルホン化した。この膜を9.5℃の熱水中に30分間改質後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.44mm、0.83、230Ω・cmであつた。

〔実施例-6〕

ステレンスルホン酸カリ51%、アクリル酸24%、メタレンビスアクリルアミド25%、過硫酸アンモニウム1%ノモノマー、および水7.0%ノモノマーよりなる液中に不均質カチオン交換膜(図)を複数枚張り、脱気後80℃で4時間重合し、改質膜を得た。この膜を9.5℃の熱水中に30分間改質後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.45mm、0.85、160Ω・cmであつた。

〔実施例-7〕

ステレンスルホン酸カリ51%、アクリル酸

特願1754-58885)

24%、メタレンビスアクリルアミド25%、および水7.0%ノモノマーよりなる液を調整し50℃にて均一系とした後、不均質カチオン交換膜(図)を複数枚張り、脱気後1メガラント電子線照射を行ない改質膜を得た。この膜を9.5℃の熱水中に30分間改質後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.42mm、0.90、200Ω・cmであつた。

〔実施例-8〕

アクリル酸75%、メタレンビスアクリルアミド25%、およびベンジイソチルエーテル2%ノモノマーよりなる液を調整した後、不均質カチオン交換膜(図)を複数枚張り、脱気後(実施例-1)と同様の照射にて20秒照射し改質膜を得た。この膜を9.5℃の熱水中に30分間改質後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.42mm、0.92、350Ω・cmであつた。

〔実施例-9〕

ポリアクリル酸水溶液(ポリアクリル酸:水=1:1)中に不均質カチオン交換膜(図)を複数

し、脱気後1メガラント電子線照射を行ない改質膜を得た。この膜を9.5℃の熱水中に30分間改質後の膜厚み、イオン輸率、比抵抗はそれぞれ0.41mm、0.87、320Ω・cmであつた。

注1)イオン輸率は膜で0.5規定の塩化ナトリウム水溶液と0.005規定の塩化ナトリウム水溶液とを触触し、膜を介して両水溶液間に発生する膜電位より算出された。

注2)比抵抗は0.5規定の塩化ナトリウム水溶液中ににおいて交換電流を測じた時の膜の示す電気抵抗値(Ω・cm)によつて算出された。

代理人 内田 明
代理人 野原 光一

(19): JAPANESE PATENT OFFICE (JP)

PUBLICATION COUNTRY (10):

DOCUMENT NUMBER (11): Japanese Laid-Open Patent Application (Kokai) No. 54-5888

DOCUMENT KIND (12): Official Gazette for Laid-Open Patent Applications (A)
(13):

(15):

APPLICATION NUMBER (21): 52-71015

APPLICATION DATE (22): June 17, 1977

PRIORITY (33) (32) (31):

DISCLOSURE DATE (43): January 17, 1979

NUMBER OF INVENTIONS 1

REQUEST FOR EXAMINATION Not yet submitted

(TOTAL OF 5 PAGES
[IN ORIGINAL])

PUBLICATION DATE (44):

PUBLICATION DATE OF
NOTICE OF PATENT
ISSUANCE (45):

REGISTRATION DATE (47):

INTERNATIONAL
PUBLICATION NUMBER (87):

ITC (51)²: C 08 J 5/22//
B 05 D 5/00
C 08 F 8/00

CLASSIFICATION SYMBOLS	102
DOMESTIC CLASSIFICATION (52):	13(9) F 131 25(5) K 12 26(3) K 2
INTERNAL OFFICE REGISTRATION Nos.	7415-4F 6683-4F 6779-4J
ADDITION TO	(61):
DESIGNATED CONTRACTING STATES	(84):
APPLICANT	(71): Mitsubishi Petrochemical Co., Ltd. 2-5-2 Marunouchi, Chiyoda Ward, Tokyo
INVENTOR(S)	(72): Ryohei Tanaka c/o Central Laboratory, Mitsubishi Petrochemical Co., Ltd., 1315 Oaza Wakaguri, Amimachi, Inashiki-gun, Ibaraki Prefecture
	(72): Eiki Yasukawa c/o Central Laboratory, Mitsubishi Petrochemical Co., Ltd., 1315 Oaza Wakaguri, Amimachi, Inashiki-gun, Ibaraki Prefecture
PATENT HOLDER	(73):
REPRESENTATIVE	(74): Akira Uchida, Patent Attorney, and one other
PRIOR ART DOCUMENTS USED IN DETERMINING PATENTABILITY	(56):

TITLE

**(54): Method for Manufacturing
Heterogeneous Cation Exchange
Membrane**

ABSTRACT

(57):

SPECIFICATION

1. Title of the Invention

Method for Manufacturing Heterogeneous Cation Exchange Membrane.

2. Claims

A method for manufacturing a heterogeneous cation exchange membrane, characterized in that a polyolefin resin is mixed with a finely powdered cation exchangeable substance, the mixture thus obtained is molded into a membrane, and this molded membrane is treated with hot water, after which a cation exchange resin layer is formed on the membrane surface layer or part of the microcracks thus formed.

3. Detailed Description of the Invention

The present invention relates to an improved method for manufacturing a cation exchange membrane, and more particularly relates to a method for manufacturing a heterogeneous cation exchange membrane with a high cation transport number at a high ion concentration. One type of ion exchange membrane comprises an ion exchangeable substance finely dispersed in a synthetic resin matrix in the form of a membrane, and this has been put to practical use as a heterogeneous ion exchange membrane. A heterogeneous ion exchange membrane such as this has better mechanical strength than a heterogeneous ion exchange membrane produced by forming the ion exchange resin itself into a membrane, but the mechanical strength is still not adequate, and various limitations are encountered in actual use. For instance, in order to enhance the practicality of a heterogeneous ion exchange membrane, it is said that the degree of swelling has to be lowered by raising the degree of cross linking so as to strengthen the chemical structure of the ion exchange resin, but this sacrifices ion exchange group density, and the specific resistance of the membrane increases as a matter of course. The ion exchange membranes that are on the market today undergo serious swelling when dipped in an aqueous solution and serious shrinkage when dried naturally in air, so much so that the membrane becomes deformed or cracked and cannot be put to practical use. Therefore, it is an absolute requirement that the ion exchange membrane be stored in a moist state and used at normal temperature, and this poses a major obstacle to use in an apparatus. In addition, since such an ion exchange membrane generally lacks flexibility, not only are there difficulties when using this ion exchange membrane in an ion exchange apparatus, but obstacles are also met in considering use in other applications for which [this ion exchange membrane] would be interesting because of its ion exchangeability.

In an effort to solve these problems and manufacture a novel heterogeneous ion exchange membrane, a method has been proposed for manufacturing a heterogeneous ion exchange membrane by using a polyolefin resin as a matrix, mixing this with a finely powdered ion exchangeable substance, molding this mixture, then subjecting this product to post-treatment with hot water. This method is disclosed, for example, in Japanese Patent Publication 47-24262, Japanese Laid-Open Patent Application 49-43888, and Japanese

Patent Application 49-53189. Nevertheless, while a heterogeneous ion exchange membrane manufactured by the above method was practical in that it did offer a certain amount of performance as an ion exchange membrane for the desalting of aqueous solutions with relatively low ion concentrations, its performance was still lacking when it was used as an ion exchange membrane for the desalting of aqueous solutions with high ion concentrations. Specifically, in an aqueous solution having a high ion concentration, the heterogeneous ion exchange membrane prepared by the above method shows an adequately low specific resistance, but has at the same time a disadvantage that the ion transport number is considerably lowered.

In the above heterogeneous ion exchange membranes, microcracks are formed due to swelling of the ion exchange resin during the post-treatment with hot water, and this is a control factor of the performance of the ion exchange membrane. It is surmised that because these microcracks are fairly large, water or ions contained therein are the cause of the lowered ion transport number at high ion concentrations.

In view of this, the inventors conducted research aimed at developing a method for obtaining a heterogeneous ion exchange membrane that has a high ion transport number without greatly raising the specific resistance of the membrane at a high ion concentration, and as a result they arrived at the present invention upon discovering the fact that it is effective to treat the microcracks that occur during hot water post-treatment of a heterogeneous ion exchange membrane with a resin having crosslinked ion exchangeable groups.

Specifically, it is an object of the present invention to provide a heterogeneous ion exchange membrane with a high cation transport number at a high ion concentration, and this object can be achieved by a method for manufacturing a heterogeneous cation exchange membrane with a high cation transport number at a high ion concentration, characterized in that a polyolefin resin is mixed with a finely powdered cation exchangeable substance, the mixture thus obtained is molded into a membrane, and this molded membrane is treated with hot water, after which a cation exchange resin layer is formed on the membrane surface layer or part of the microcracks thus formed.

Polyolefin resins that can be used as the matrix resin here include ethylene homopolymers, propylene homopolymers, copolymers primarily consisting of ethylene or propylene, and copolymer mixtures primarily consisting of one of these olefin homopolymers or copolymers.

Any finely powdered cation exchange resin can be used, but the preparation thereof is carried out as follows, for example:

- (A) An aromatic compound that has vinyl groups allowing for the easy introduction of cation exchange groups is subjected to suspension copolymerization in an aqueous medium with a compound that has two or more unsaturated bonds per molecule and that can be polymerized with this aromatic compound, the copolymer beads thus obtained are treated with a sulfonation agent, and the cation exchange resin beads obtained in this manner are mechanically pulverized.
- (B) An aromatic compound that has vinyl groups allowing for the easy introduction of cation exchange groups is subjected to emulsion polymerization in an aqueous medium with a compound that has two or more unsaturated bonds per

molecule and that can be polymerized with this aromatic compound, and the finely powdered copolymer thus obtained is treated with a sulfonation agent to obtain a finely powdered cation exchange resin.

(C) A cation exchange resin whose matrix is a copolymer of a phenol compound and formaldehyde is mechanically pulverized.

Examples of the "aromatic compound that has vinyl groups allowing for the easy introduction of cation exchange groups" referred to here include styrene, vinyltoluene, ethylvinylbenzene, α -methylstyrene, vinylnaphthalene, and derivatives of these. These compounds can be used singly or in combination. Divinylbenzene is generally used as the "compound that has two or more unsaturated bonds per molecule and that can be polymerized."

The mixing ratio of the polyolefin resin and the finely powdered cation exchange resin is determined as dictated by the intended use of the finished product, but is generally 2:8 to 8:2 by weight, with a preferable range being 4:6 to 7:3 by weight. The mixing of the polyolefin resin and the finely powdered cation exchange resin can be accomplished by any method that allows the two components to be mixed uniformly, but kneading is generally performed using a roll or an extruder. Particularly desirable is thorough kneading at a temperature over the melting point of the polyolefin resin. Other auxiliary components such as antioxidants, colorants, fillers, and lubricants can be added as needed during this kneading or at any other stage. The obtained mixture is then molded into a film or sheet under suitable conditions in an ordinary roll or press. The plasticizing step that comes before the molding work can be replaced by the step in which the above-mentioned components are kneaded.

The film-shaped article manufactured in this way is subjected to a post-treatment with hot water at 60°C or higher, and preferably 70°C or higher. The hot water treatment is performed in the present invention in order to increase the swelling of the ion exchange resin as much as possible for the purpose of lowering the specific resistance and minimizing changes over time as the product is used. It is therefore preferable for the hot water used in the treatment not to contain any soluble substances, but if it is necessary to control the formation of microcracks, an acid, an alkali, or a salt such as sodium chloride can be added to the hot water.

A cation exchange resin layer is then formed on the membrane surface layer or the microcracks in the ion exchange resin membrane that has undergone this treatment. This cation exchange resin layer can be formed, for example, by a method in which a polymer that has cation exchangeable groups, such as a polymer of acrylic acid, or a polymer that has groups allowing the introduction of cation exchangeable groups is dissolved in a solvent, and [this solution] is then applied to the ion exchange resin membrane by a suitable means such as dipping, after which [this coating] is crosslinked by irradiation, or by a method in which a cation exchangeable monomer and a crosslinking monomer are applied and then polymerized, or a monomer suited to the introduction of cation exchangeable groups and a crosslinking monomer are applied and polymerized, and cation exchange groups are then introduced. The latter method, which starts from monomers, is preferred, however.

Specifically, the combination of monomers can be broadly classified into two groups as follows.

- (A) Monomers having cation exchangeable groups and crosslinking monomers, and in some cases reactive or non-reactive solvents that are miscible with both of the above monomers.
- (B) Monomers suited to the introduction of cation exchangeable groups and crosslinking monomers.

Any groups able to undergo cation exchange can be employed as the cation exchangeable groups, but sulfonic acid groups are preferred for the purpose of preventing an increase in specific resistance. Examples of monomers having cation exchangeable groups include acrylic acid, acrylic salts, acrylic esters, methacrylic acid, methacrylic salts, methacrylic esters, styrenesulfonic acid, styrenesulfonic salts, styrenesulfonic esters, vinylsulfonic acid, vinylsulfonic salts, and vinylsulfonic esters.

Styrene is generally used as the monomer suited to the introduction of cation exchangeable groups. A known method, such as sulfonation by sulfuric acid or chlorosulfuric acid, can be used as the method for introducing the cation exchangeable groups after polymerization.

Meanwhile, divinylbenzene, a dimethacrylate, methylenebisacrylamide, or the like can be used as the crosslinking monomer. If the monomer having cation exchangeable groups and the crosslinking monomer are not miscible, then it is better to conduct the reaction as a uniform system by using acrylic acid, methacrylic acid, or another such reactive monomer and/or water or another such non-reactive monomer.

A substrate membrane is impregnated with the above-mentioned combination of monomers, after which polymerization is conducted, and the polymerization method can involve the use of ultraviolet rays, heat, radiation, or the like. When UV rays are used, however, a known benzoin compound, a benzophenone, a mercaptan, or the like must be used as a photosensitizer, and when heat is used, a peroxide, an azo compound, or the like must be used as a polymerization initiator. In view of the heat resistance of the substrate membrane, that is the heat resistance of the polyolefin, the polymerization temperature should be 100°C or lower, and preferably 80°C or lower. Accordingly, the initiator used when thermal polymerization is conducted should be one that will decompose at this temperature, examples of which include benzoyl peroxide, lauroyl peroxide, diisopropyl peroxydicarbonate, tert-butyl peroxypivalate, and azobisisobutyronitrile.

After polymerization, [the product] is washed with methanol and then with water in order to remove the monomers. In some cases, a post-treatment with hot water is performed once more after this.

A heterogeneous cation exchange membrane obtained in the above manner will have a greatly increased ion transport number without any loss of the specific resistance of the membrane in an aqueous solution with a high ion concentration.

The present invention will now be described in further detail through working examples. The present invention is not limited to these working examples, and modifications can be made within the scope of the present invention. All parts and percentages in the working examples are by weight.

Comparative Example 1

8 parts of divinylbenzene (55% purity) was added to 92 parts of styrene, and copolymer particles were obtained by suspension polymerization using benzoyl peroxide or the like as

a catalyst. This product was sulfonated with fuming sulfuric acid to obtain a strongly acidic cation exchange resin. This strongly acidic cation exchange resin was ground to a grain size of 325 mesh or less in a vibrating ball mill. This resin had a total exchange capacity of 4.5 meq/g on dry base. 40 parts of polypropylene (MI = 10) powder was added to 60 parts of this ground strongly acidic cation exchange resin and subjected to thorough agitation and mixing, after which this mixture was sheet-molded to obtain a molded membrane (A). This molded membrane (A) was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, which yielded a heterogeneous cation exchange membrane (B). The thickness of this cation exchange membrane was 0.38 mm, the ion transport number was 0.76, and the specific resistance was 150 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 1

A solution composed of 51% potassium styrenesulfonate, 24% acrylic acid, 25% methylenebisacrylamide, 2%/monomer benzoin methyl ether, and 70%/monomer water was prepared and made into a homogeneous system at 50°C, after which the heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in this solution, and after deaeration, this product was irradiated for 10 seconds at an irradiation distance of 10 cm using a Type I-20 high pressure mercury vapor lamp made by JEOL (output: kW, lamp length: 25 cm), which yielded a modified membrane. The thickness of this membrane was 0.45 mm., its ion transport number was 0.94, and its specific resistance was 230 $\Omega \cdot \text{cm}$. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.43 mm, its ion transport number was 0.93, and its specific resistance was 180 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Comparative Example 2

An ion exchange resin layer was formed under the same conditions as in Working Example 1 prior to the hot water treatment of the molded membrane (A), after which this product was soaked for 30 minutes in 95°C hot water.

The thickness of this cation exchange membrane was 0.40 mm, its ion transport number was 0.78, and its specific resistance was 160 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 2

Other than using sodium vinylsulfonate in place of the potassium styrenesulfonate, a cation exchange membrane was obtained by the same method as in Working Example 1. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.39 mm, its ion transport number was 0.86, and its specific resistance was 170 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 3

Other than using ethylene glycol dimethacrylate in place of the methylenebisacrylamide, a cation exchange membrane was obtained by the same method as in Working Example 1. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.40 mm, its ion transport number was 0.88, and its specific resistance was 230 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 4

Other than using 9% methylenebisacrylamide and 16% ethylene glycol dimethacrylate in place of methylenebisacrylamide alone, a cation exchange membrane was obtained by the same method as in Working Example 1. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.42 mm, its ion transport number was 0.90, and its specific resistance was 220 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 5

The heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in a solution composed of 92% styrene, 8% divinylbenzene, and 2%/monomer benzoin methyl ether, after which this product was irradiated for 20 seconds using the same irradiation apparatus as in Working Example 1. This membrane was sulfonated for 6 hours at 40°C in a solution composed of 83% sulfuric acid (98%) and 17% tetrachloroethane. This membrane was then soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.44 mm, its ion transport number was 0.88, and its specific resistance was 230 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 6

The heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in a solution composed of 51% potassium styrenesulfonate, 24% acrylic acid, 25% methylenebisacrylamide, 1%/monomer ammonium persulfate, and 70%/monomer water, and after deaeration, this product was polymerized for 4 hours at 80°C to obtain a modified membrane. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.43 mm, its ion transport number was 0.85, and its specific resistance was 160 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 7

A solution composed of 51% potassium styrenesulfonate, 24% acrylic acid, 25% methylenebisacrylamide, and 70%/monomer water was prepared and made into a homogeneous system at 50°C, after which the heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in this solution, and after deaeration, this product was irradiated with a one-megarad electron beam to obtain a modified membrane. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.42 mm, its ion transport number was 0.90, and its specific resistance was 200 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 8

A solution composed of 75% acrylic acid, 25% methylenebisacrylamide, and 2%/monomer benzoin methyl ether was prepared, after which the heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in this solution, and after deaeration, this product was irradiated for 20 seconds using the same irradiation apparatus as in Working Example 1 to obtain a modified membrane. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.42 mm, its ion transport number was 0.92, and its specific resistance was 350 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Working Example 9

The heterogeneous cation exchange membrane (B) was immersed in a polyacrylic acid aqueous solution (polyacrylic acid:water - 1:1), and after deaeration, this product was

irradiated with a one-megarad electron beam to obtain a modified membrane. This membrane was soaked for 30 minutes in 95°C hot water, after which its thickness was 0.41 mm, its ion transport number was 0.87, and its specific resistance was 320 $\Omega \cdot \text{cm}$.

Note 1: The ion transport number was calculated from the membrane potential generated between a 0.5 N sodium chloride aqueous solution and a 0.005 N sodium chloride aqueous solution when the two aqueous solutions were separated by the membrane.

Note 2: Specific resistance was calculated from the electrical resistance ($\Omega \cdot \text{cm}$) exhibited by the membrane when an alternating current was passed through a 0.5 N sodium chloride aqueous solution.

Agent: Akira Uchida

Agent: Koichi Akihara